

CKD-Risk Check Report

～ 慢性腎臓病のリスク検査 ～

受診医療機関名

メディコクリニック

★ 氏名

メディコ タロウ 様

★ 受診日

2016/8/1

★ カルテID

-

★ 性別

男性

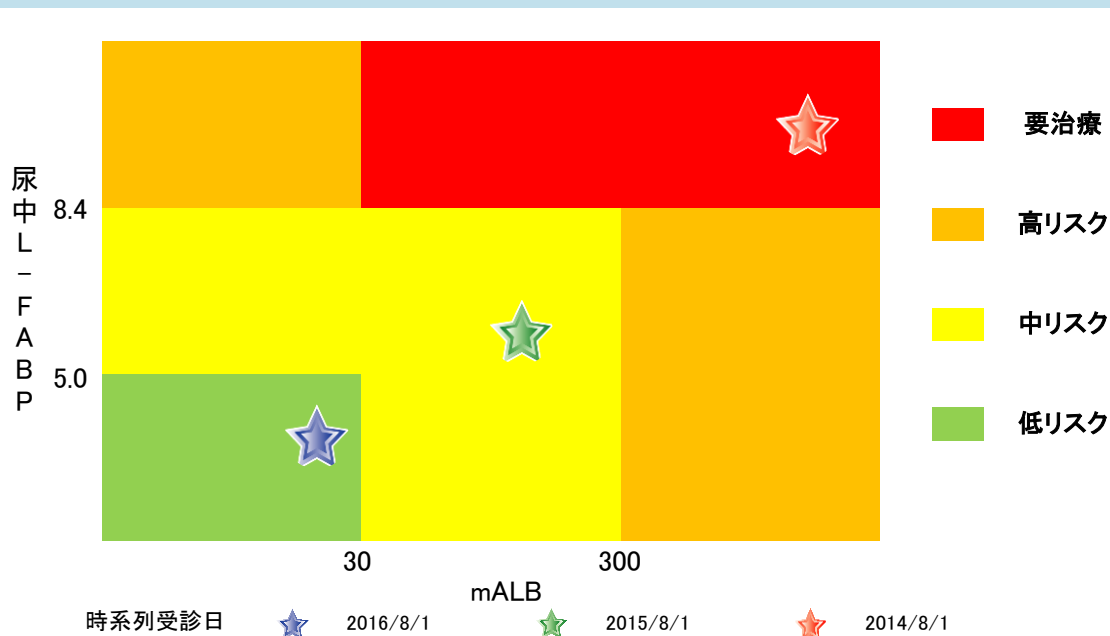
★ 年齢

40

あなたの腎障害の可能性は

低リスク

です。

CKDリスク
チェックと
は？

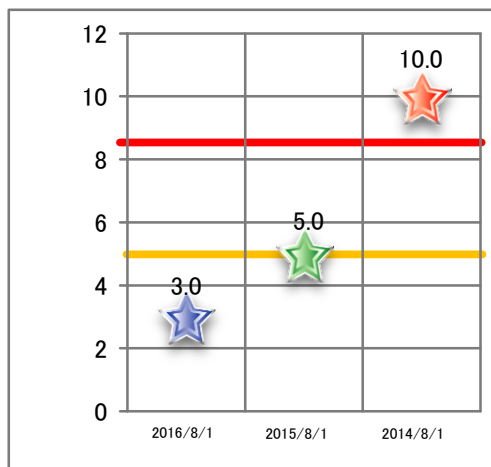
CKD(慢性腎臓病)は腎臓の血流不全による酸化ストレスの上昇より始まり、腎臓の糸球体という部分に障害が起きることにより、腎臓のろ過機能の低下を引き起こすと言われています。この血流不全により酸化ストレスが上昇すると尿中にL-FABPというたんぱく質が、腎臓のろ過機能が低下するとアルブミン(mALB)というたんぱく質がそれぞれ尿中に漏れ出てきます。その為、尿中のL-FABPとアルブミン(mALB)を測定・解析することで、CKD(慢性腎臓病)の初期段階より捉えることが出来ます。また、L-FABPとmALBの双方を測定することでCKD(慢性腎臓病)の進展リスクをより正確に評価できる事が分かっています。

Doctor's Advice

腎臓の健康状態(血流状態と酸化ストレス)の指標であるL-FABP、腎臓のろ過機能の指標であるmALB共に正常範囲です。
この結果は腎臓が健康であり、正常に機能している状態と言えるでしょう。しかし油断してはいけません。CKD(慢性腎臓病)は高血圧、糖尿病等の基礎疾患や生活習慣の変化によって自覚症状なく進行していきます。その為、今後も国際腎臓学会の提唱する「8つのゴールデンルール」(報告書裏面参照)を遵守し、年に1回程度は腎臓の状態を検査しましょう。

個別時系列データ

尿中L-FABP



評価 低リスク 中リスク 高リスク

解説:

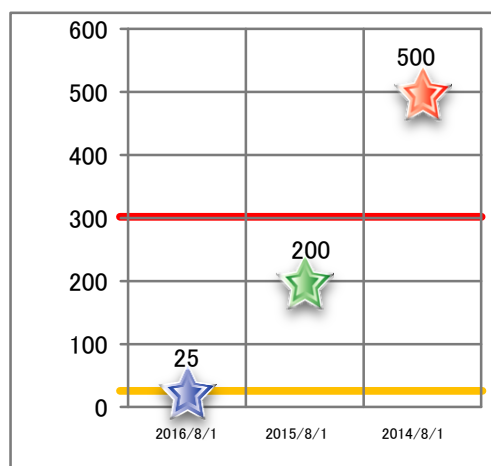
L-FABPは腎臓の健康状態(血流状態と酸化ストレス)を調べる検査です。

今回の結果で腎臓の健康状態に異常は認められませんでした。

CKD(慢性腎臓病)は腎臓の血流不全と酸化ストレスの上昇(L-FABPの上昇)よりスタートし、腎臓のろ過機能が低下(mALB値の上昇)するケースが多く報告されております。

CKD(慢性腎臓病)を未然に防ぐ為にも、生活習慣に気を付けるとともに、定期的な検査を行い、CKDの最大のリスクファクターである糖尿病や高血圧にも気を付けましょう。

mALB



評価 低リスク 中リスク 高リスク

解説:

mALBは腎臓のろ過機能を調べる検査です。腎臓の糸球体という部分が障害を受け、ろ過機能の低下が起こると本来ろ過されるアルブミン(mALB)というたんぱく質が尿中に漏れ出てしまうことでmALBの値は上昇します。

今回の検査で腎臓のろ過機能に異常は認められませんでした。

しかし、これに安心せずに国際腎臓学会提唱の「8つのゴールデンルール」(報告書裏面参照)を遵守しCKD(慢性腎臓病)を未然に防ぎましょう。

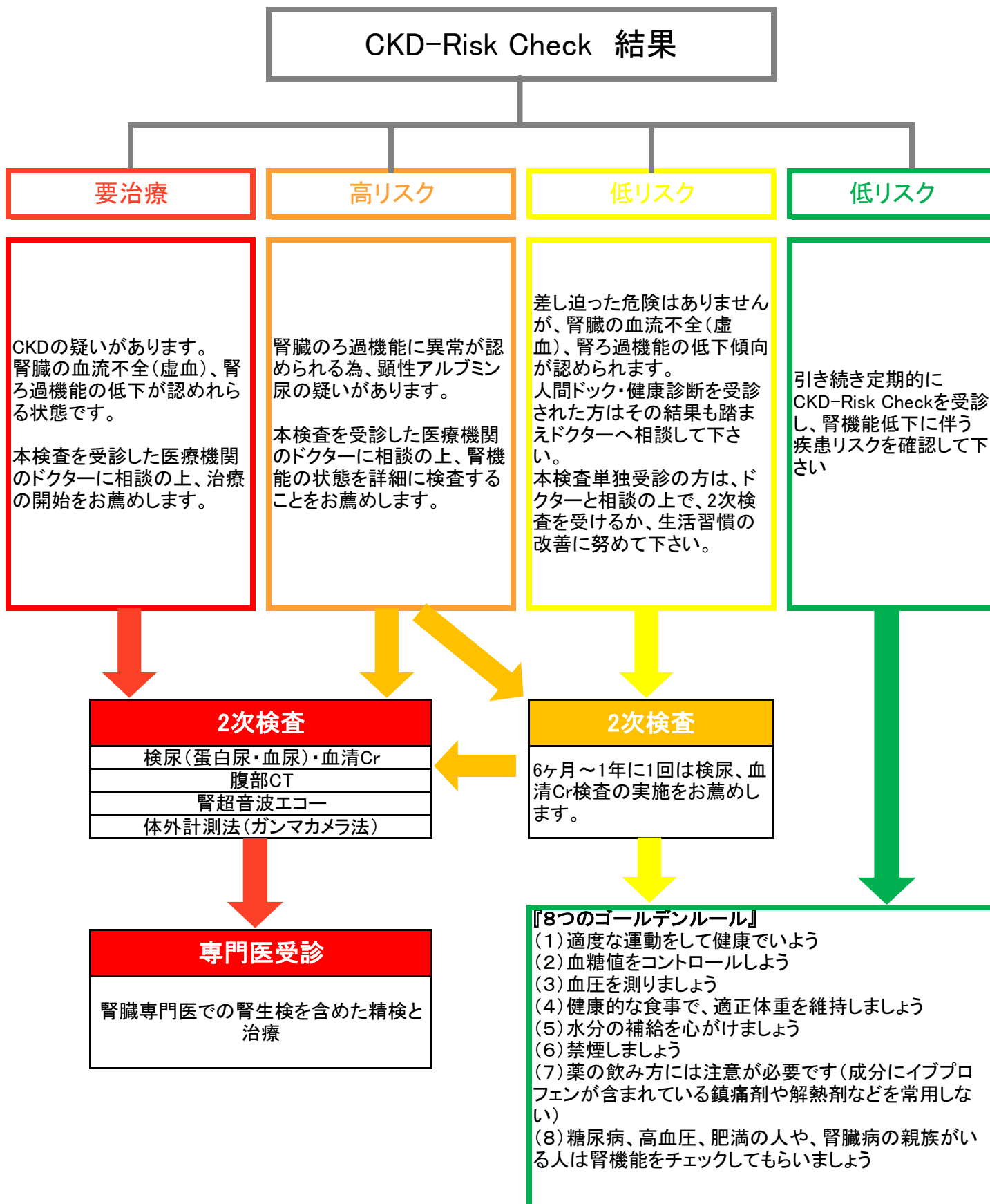
腎疾患の説明

現在、日本人の成人人口の7~8人に1人が慢性腎臓病(CKD)とみられており新たな国民病となりつつあります。CKDは進行すると透析療法をしなければならなくなりますし、脳梗塞・心筋梗塞といった動脈硬化疾患の重要なリスク因子であることも明らかとなっております。しかし、CKDは初期段階ではまったく自覚症状が無い場合が多い疾患です。その為、定期的に腎機能検査を実施するとともに、国際腎臓病学会の提唱する「8つのゴールデンルール」を心掛け、CKDの予防を心掛けましょう。

『8つのゴールデンルール』

- (1) 適度な運動
- (2) 血糖の管理(糖尿病予防・管理)
- (3) 血圧の管理(高血圧予防・管理)
- (4) 適正体重を維持
- (5) 水分の補給
- (6) 禁煙
- (7) 薬の副作用を確認
- (8) メタボ、腎臓病の親族への受診喚起

腎障害リスク検査を受診された後に...



※ 当検査は、研究検査項目になるため診断目的で使用頂くことは出来ません。

測定・販売:

NKmedico

開発協力:

CMIC
Pharmaceutical Value Creator